

3つのポリシー

短期大学部

〔ディプロマポリシー〕

短期大学部では、建学の精神「学園の信条である『親切』」を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成することを踏まえ、深い専門の学芸を教授研究し、職業又は实际生活に必要な能力を養うと共に、高い教養と高潔な品格を身につけた良き社会人を育成することを教育目的としています。

この教育目的を達成するため、短期大学部で卒業時において学生が修得すべき資質・能力は、下記の3点とします。

1. 自ら構築した審美眼および思考に基づき、創造力豊かに自己表現ができる。
2. 主体性を持って、人間・社会・自然における多様な課題を発見し、その課題について分析・解決し、人間として自立して生きていくことができる。
3. 他者への思いやりの精神を持ち、コミュニケーション能力を発揮し、多様な異文化を享受して社会性を高め、グローバルな視点に立って思考することができる。

〔カリキュラムポリシー〕

短期大学部では、教育目的である「よき家庭人で力強い職能人」を実現するため、かつディプロマポリシーで提示した資質・能力が修得できるために、初年次教育・キャリア教育を含む「全学共通科目」と各学科の「専門科目」にて、学修課程を構成しています。

1. 自らの審美眼や思考を構築でき、人間・社会・自然における多様な課題が発見でき、他者および異文化の多様な思いや言動を享受できるようになるために、「全学共通科目」「専門科目」の講義科目を中心に、幅の広い知識を学ぶ。
2. コミュニケーション能力を発揮し、創造力豊かに自己表現ができるようになるために、「専門科目」の演習科目・実習科目を中心に、専門分野の技術を学び、自己の表現力を磨く。
3. 多様な課題について分析・解決でき、他者と自己および多様な文化が融合できるようになるために、「専門科目」の演習科目・実習科目を中心に、思考力・判断力を養う。

全ての学修課程において、学生が主体的に学ぶ姿勢を養うことを基本とします。そのために、アクティブラーニングなどの能動的学修方法を充実させ、プロセス評価および正課外学習で得た汎用的能力を含む総合的な視点に立つ学修成果の評価を行います。また、GPAを活用して、学修成果を振り返りながら、学生指導を行います。

〔アドミッションポリシー〕

短期大学部では、「学園の信条である『親切』」を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成することを踏まえ、深い専門の学芸を教授研究し、職業又は实际生活に必要な能力を養うと共に、高い教養と高潔な品格を身につけた良き社会人を育成することを教育目的としています。

この教育目的を達成するため、生活学科と保育学科の2学科を設置し、生活学または保育学の専門的な知識・技能とともに、日常生活に欠かせない諸知識・技能を教授しています。そして、学生たちが短期大学部の教育を理解し、「よき家庭人で力強い職能人」を実現するために、諸知識・技能を修得しようという強い意欲を持ち、自主的な姿勢で学習ができる人材を求めます。

1. 人間・社会・自然における多様な事象に、また他者および異文化について、興味を

- 持ち、主体的に学ぼうという意欲がある人材
2. 人間・社会・自然における多様な事象に、また他者および異文化について、理解できるように必要な基礎学力を有している人材
 3. 自己の考えを、コミュニケーション能力を発揮し、他者に伝えようとする行動力を培おうとしている人材

保育学科

〔ディプロマポリシー〕

「福祉マインドを持った人間性豊かな保育士および幼稚園教諭」という保育の専門職として、社会や家庭で活躍するために、福祉の精神を具現化でき、諸問題について、他者と協調しながら倫理感を持って自主的に解決策を見出そうと努めることができる能力を身に付けた者に、短期大学士（保育学）を授与します。

具体的には、短期大学部保育学科で卒業時において学生が修得すべき資質・能力は、下記の3点です。

1. 自ら構築した保育・教育観および子どもへの意識に基づき、命の大切さを尊重し、それを守るための優しさを体得し、創造力豊かに子どもと接することができる。
2. 主体性を持って、保育・教育についての専門的知識・技能を習得した立場から、子どもたちを取り巻く環境である人間・社会・自然における多様な課題を発見し、それらの課題について分析・解決し、人間として自立して生きていくことができる。
3. 保育・教育分野において、他者および異文化の多様な思いや言動を享受し、コミュニケーション能力を発揮して、グローバルな視点に立って社会性を高めることができる。

〔カリキュラムポリシー〕

「福祉マインドを持った人間性豊かな保育士および幼稚園教諭」を育成するために、5系列（福祉の理論、こころとからだの発達・健康、保育と教育の理論、保育と教育の内容・技能、保育と教育の実践）に分類した「学科専門科目」でカリキュラムを構成しています。さらに、保育者としての総合的な知識と資質を養成するために、少人数教育型で進める授業を設けています。このように、基礎から実践・応用に発展するような教育課程を組んでいます。

1. 自らの保育・教育観を構築し、子どもたちを取り巻く人間・社会・自然環境における多様な課題を発見して、他者および異文化の多様な思いや言動を享受できるようになるために、保育内容の5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）をもとに、講義科目を中心として、保育・教育に関する幅の広い知識を学ぶ。
2. コミュニケーション能力を発揮し、創造力豊かに自己表現ができるようになるために、演習科目・実習科目を中心に、音楽・造形・身体・言語等の表現等の技術を学び、自己の表現力を磨くとともに、子どもの発達に基づいた援助・指導を実践できる力を養う。
3. 子どもに関わる様々な課題について、自らの考えで分析・解決でき、多くの子どもたちについて個々の考えを尊重しながら統括できるようになるために、演習科目・実習科目を中心に、思考力・判断力を伴った実践力を養う。

全ての学修課程において、学生が主体的に学ぶ姿勢を養うことを基本とします。そのために、アクティブラーニングなどの能動的学修方法を充実させ、プロセス評価および正課外学習で得た汎用的能力を含む総合的な視点に立つ学修成果の評価を行います。また、GPAを活用して、学修成果を振り返りながら、学生指導を行います。

〔アドミッションポリシー〕

- 1 教育目的・人材育成目標

「保育・教育・福祉」の分野について深く専門知識を学び、「命の大切さ、それを守るための優しさ」を体得し、核家族化や地域コミュニティの希薄化が育児に与える影響など、さまざまな子育て支援の要望に対応できる福祉マインドを持った人間性豊かな保育士および幼稚園教諭の育成を教育目的としています。

その教育目的を達成するため、子どもが好きで、あらゆる人間同士のコミュニケーションを大切に思い、命の尊さを真摯に受け止め、社会や自然に対して真摯な眼差しを持てる人材育成を行っています。

- (1) 保育・教育・福祉の分野において、育児・子育て支援をめぐる社会的要因や他者および異文化について興味を持ち、主体的に学ぶ人材
- (2) 心身ともに健康で、音楽・美術など芸術を好み、発想豊かな遊びの心を持った明るい人材
- (3) 自己表現のコミュニケーション能力を発揮し、子どもたちの自己表現を助けるなど、子どもに積極的に関わろうという行動力のある人材

2 求める学生像

- (1) 知識・技能：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」などの告示文を理解できるため
に必要な基礎学力（文章読解力、漢字検定3級以上程度）、さらに高等学校での授業科目を幅広く履修し、十分な基礎学力をもつ者
- (2) 思考・判断・表現：多様な情報収集ができた上で、自分の考え・意見を作り出し、それを表現できる者
- (3) 主体性・多様性・協働性：
 - ・学修の成果として保育士資格と幼稚園教諭免許状を取得し、保育者を目指す人
 - ・専門的な知識・技能の習得のため、何事にも意欲的に取り組める者
 - ・地域貢献活動やボランティア活動等に積極的に参加できる者
 - ・さまざまな課題等を最後まで取り組み、期日までに作成・提出できる者